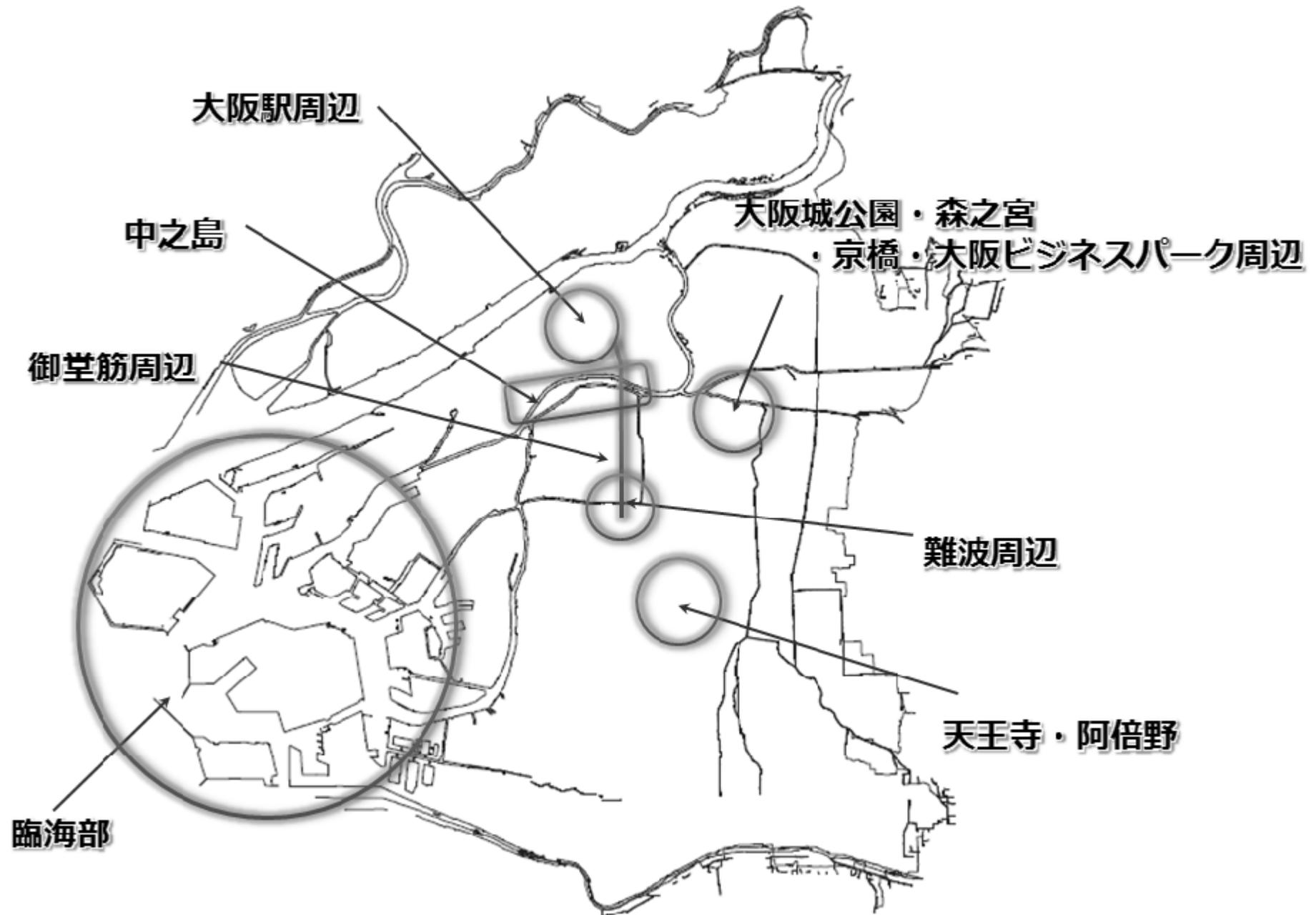


エリア別のまちづくりの方向性

位置図

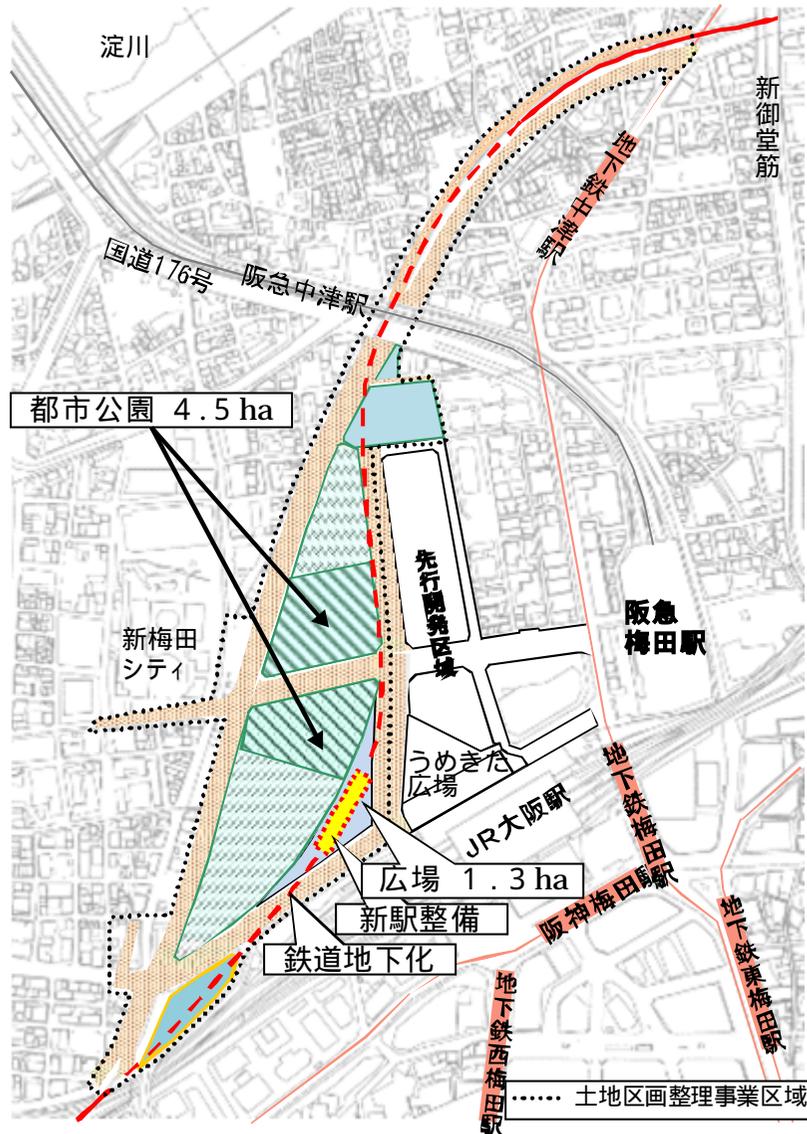


大阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中からまちづくりに資する施策を取り出して上記エリア別に編集し、各エリアのまちづくりの方向性についてとりまとめています。

大阪駅周辺

- 大阪駅北側に位置するうめきた2期区域（梅田貨物駅跡地）は、「みどりとイノベーションの融合拠点」として、世界から人が集まる、一体的で魅力あるまちづくりを進めます。
- 民間の創意工夫によるエリアマネジメント*を誘導し、大阪駅周辺において一体的に運用することで、まちの付加価値を高め、憩い、過ごすことができる快適な空間の創出をめざします。

*地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組み

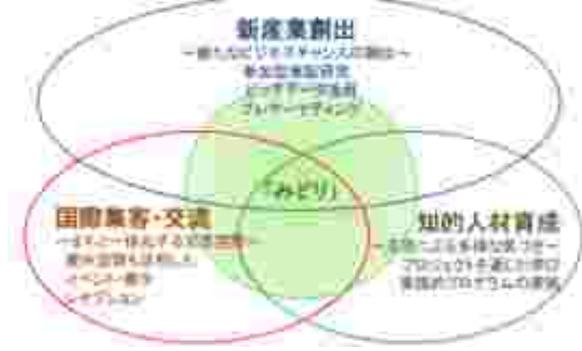


うめきた2期区域のまちづくり

2期区域のまちづくりの目標
比類なき魅力を備えた「みどり」が創る
新たな都市空間

「みどり」と「イノベーション」の
融合拠点

うめきた2期に導入する中核機能の概要



都市基盤施設の整備（民間開発と合わせて一体的に推進）

うめきた新駅設置事業・JR東海道線支線地下化事業
地上を走行するJR東海道線支線を地下化し、分断された市街地を一体化します。踏切除却等により、都市内交通を円滑化するとともに、新駅を設置し関西国際空港との所要時間を短縮させ、国際競争力を有する地域を形成します。

大阪駅北大深西地区土地区画整理事業
民間開発に向け、土地の区画を整え、良質な宅地を提供するとともに、地区の骨格となる道路、広場等の公共施設を整備します。

大深町地区防災公園街区整備事業
地上のまとまったみどりとして、地区中央部に防災公園を整備します。

うめきた新駅の設置等とともに、新たな鉄道「なにわ筋線」の事業化に向けた検討を深め、都心部から関西国際空港や新大阪へのアクセス強化をはかります。

中之島

・水の都・大阪のシンボルである中之島において、新美術館の整備を核に、隣接する市有地と美術館との連携・調和により相乗効果を発揮する一体的なまちづくりを実現するとともに、MICE機能の拡充などにより、国際ビジネス機能を高め、相互が一体となった大阪の文化・芸術・学術・国際交流の中心的な拠点をめざします。

中之島5丁目
 ・大阪の国際交流の拠点形成へ
 ・MICE機能の拡充などを検討します。

中之島図書館、中央公会堂の近代建築の魅力を活用して、中之島エリアの集客及び活性化をめざします。

番号	
	東洋陶磁美術館
	大阪市中央公会堂
	大阪府立中之島図書館
	大阪市役所
	日本銀行大阪支店

中之島4丁目
 ・大阪の文化・芸術・学術の中心を担う国際的な拠点へ
 ・2021年度開館予定の新しい美術館と、市立科学館、国立国際美術館との連携により国内有数のミュージアムゾーンをめざします。
 ・新美術館隣接市有地等で、社学共創・産学共創・アート拠点、未来医療国際拠点の形成をめざします。

社学共創・産学共創・アート拠点
 産学官の連携により、大阪大学の知を中之島で交差させ、文化・芸術・学術・技術のあらたな交流・発信拠点となる“中之島アゴラ”の形成を推進します。

新美術館の整備
 本市が所蔵する第一級のコレクションを活用して、市立美術館や東洋陶磁美術館とは異なる新たな魅力あふれる美術館を、2021年度の開館をめざして整備することにより、歴史的にも文化的にも豊かな蓄積をもつ中之島の魅力向上に貢献します。

未来医療国際拠点
 再生医療をベースに、次の時代に国際拠点実現すべき新たな「未来医療」の実用化・産業化を推進する点を形成。2021年度施設オープンをめざします。

凡 例		
	整備済み	整備予定
大阪市	■	■
その他公的施設	■	■

番号	
	新美術館予定地
	国立国際美術館
	大阪市立科学館
	大阪大学中之島センター
	市有地
	大阪市立扇町高校跡地
	大阪府立国際会議場

御堂筋周辺

- 大阪のメインストリートである御堂筋では、時代の要請に応じ、21世紀の発展を支える新しい御堂筋とするため、歩いて楽しむ、24時間稼働する多機能エリアへの転換を図り、御堂筋のブランド力の向上をめざします。
- 歴史・文化的資源が集積するエリアでは、歴史・文化的な建物等を活用するなど、観光魅力向上につながる歴史・文化的まちなみの創出をめざします。



御堂筋のブランド力の向上
側道を歩行者空間等として活用し、車中心から人中心の道路空間への転換を図ります。また、ビル足元におけるクオリティの高いにぎわい施設の誘導により、大阪のシンボルストリートにふさわしいまちなみの創出やエリアの活性化を図ります。

御堂筋の側道歩行者空間化 (難波～難波西口交差点)



御堂筋の将来イメージ (淀屋橋～本町)



歴史・文化的まちなみの創出
歴史・文化的な建築資源を活かした着地型観光拠点を創出するため、生きた建築ミュージアム等で選定された建築物の周辺において無電柱化や周辺景観と調和した道路整備を行い、御堂筋や三休橋筋からの回遊性の向上をめざします。



無電柱化された道路整備後のイメージ(芝川ビル周辺)

難波周辺

- ・市民、観光客をはじめ、だれもが安心して訪れ、その歴史や風情を楽しむことができる環境づくりを進め、難波周辺を商業・観光エリア「ミナミ」として再生します。
- ・大阪のメインストリートである「御堂筋」の起終点として、なんば駅前において人中心の空間への再編を進め、新しいまちのシンボル空間を創出します。



なんば駅周辺道路空間再整備
 なんば駅周辺の道路空間を、車中心の空間から人中心の空間へと再編し、地元組織等のエリアマネジメント活動により、世界をひきつける観光拠点として上質で居心地の良い空間の創出を図ります。

なんば駅前広場（再整備検討箇所）



なんば駅前の現況



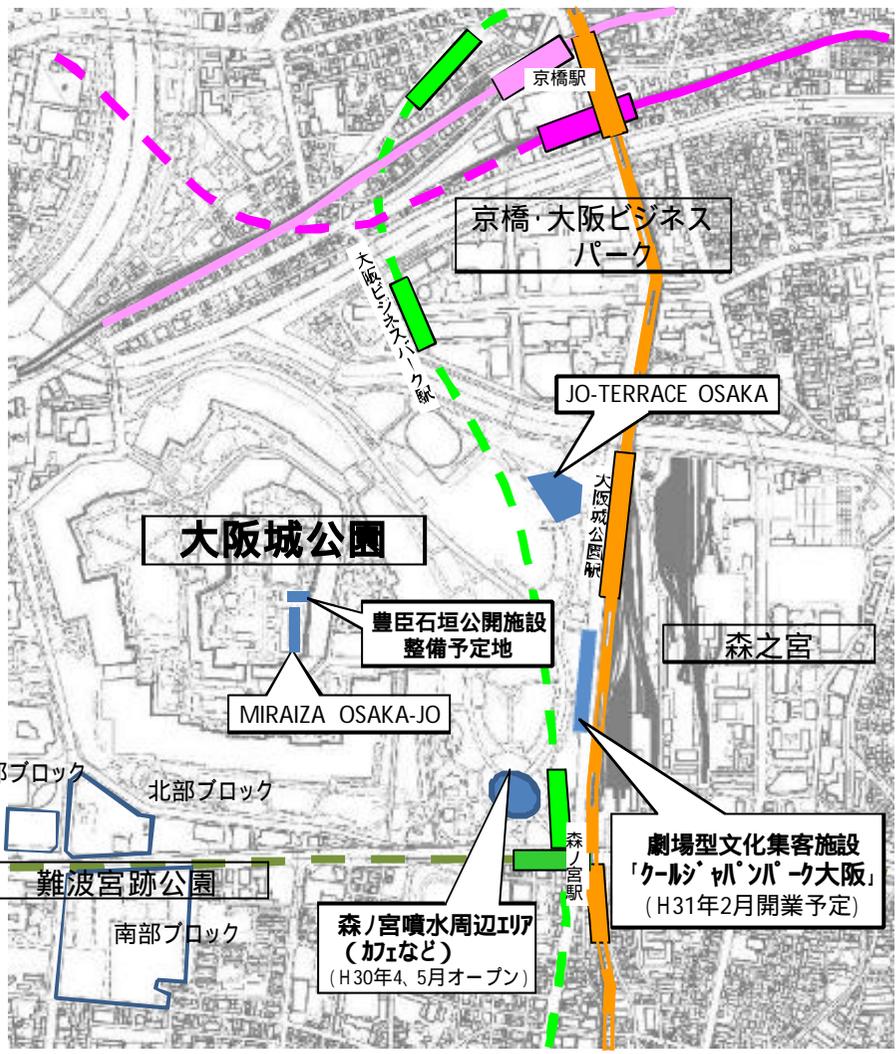
なんば駅周辺道路空間再編
 社会実験（H28.11）の様子



なんば駅前の将来イメージ

大阪城公園・森之宮・京橋・大阪ビジネスパーク周辺

- ・大阪城公園の民間活力導入による新たな魅力創出や難波宮跡公園の歴史的資源の活用により、大阪城公園を中心とした世界的な歴史観光拠点化を一層進めます。
- ・森之宮のまちづくりでは、大規模な土地利用転換をはかり、子育て世代や高齢者等が健康的に住み続けられ、活力あるまちをめざします。
- ・京橋駅周辺では、ターミナル駅の機能拡充や歩行者ネットワークの向上をはかるとともに、大阪ビジネスパークを災害時などリスク発生時の業務継続性に強いまちとして再生し、国際的なビジネス拠点をめざします。



大阪城公園パークマネジメント
 実施中の民間事業者によるパークマネジメント事業により、新たな魅力を創出する事業や新たな公園施設の設置などを行い、その収益を公園全体の維持管理やさらなる魅力向上に還元することで、大阪城公園を世界的な歴史観光拠点とすることをめざします。



豊臣石垣公開施設の整備事業
 特別史跡大坂城跡の特徴である歴史の重層性を象徴する遺構のひとつとして、豊臣期大坂城の詰ノ丸石垣を露出公開展示し、大阪城の本物の歴史文化を体感できる施設をめざします。

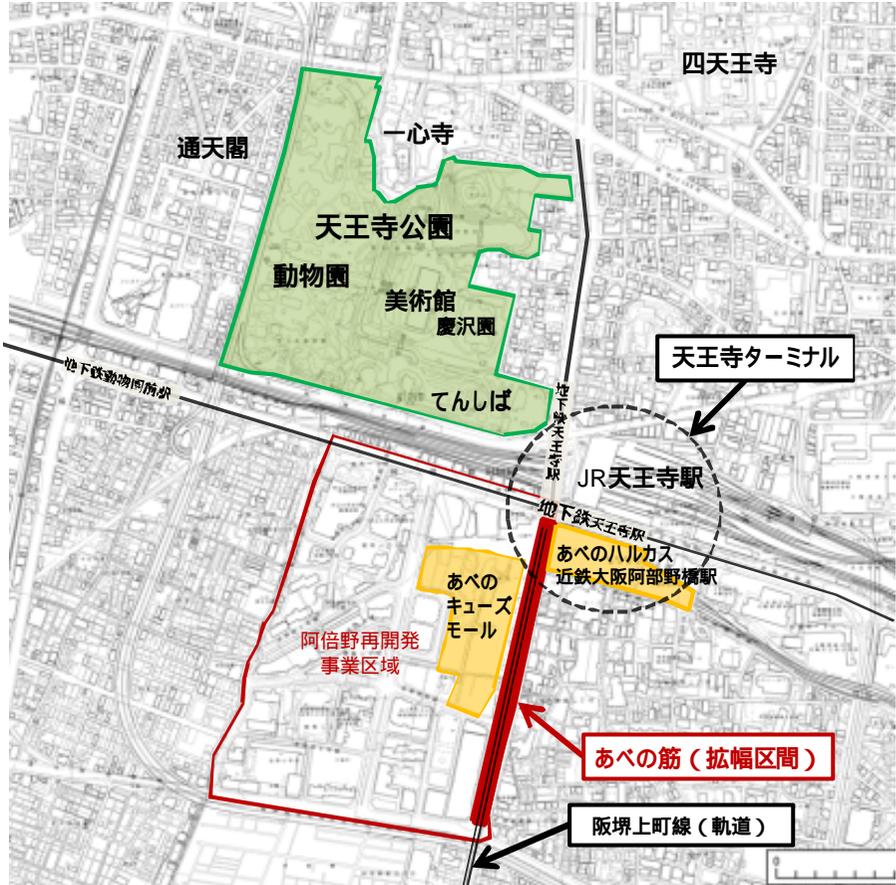


難波宮跡公園整備
 難波宮跡公園は、歴史的資源を活かし、隣接する大阪城公園と一体となった、観光拠点となる歴史公園として整備を推進します。北部ブロックから整備を進め、周辺の回遊性の向上をはかります。



天王寺・阿倍野

天王寺・阿倍野地区は、多様な観光資源を有する大阪の南の玄関口であり、その強みを活かし、地区の核となる天王寺公園・動物園・美術館の魅力向上並びに、回遊性の向上や良好な景観の形成をはかることで、新たな都市魅力を創出する緑あふれる文化観光拠点をめざします。



天王寺公園の魅力向上
 天王寺公園を核とした天王寺・阿倍野地区の魅力発信・集客促進に取り組みます。

- ・天王寺公園
 官民連携等により、公園の新たな魅力を創出し、歴史・文化・自然が一体となった公園として、多様な人々が憩い楽しめる、大阪の南のシンボルになることをめざします。
- ・天王寺動物園
 平成28年10月策定の『天王寺動物園101計画』に基づき、動物園の改革・改善を継続的に実施し、大都市大阪にふさわしい魅力あふれる動物園をめざします。
- ・大阪市立美術館
 美術館の抜本的な改修を行い、現代の美術館に求められている機能の確保をはかり、美術館の魅力向上につなげます。

天王寺公園エントランスエリア (てんしば)



天王寺動物園101計画による施設整備イメージ



あべの筋の魅力づくり
 あべの筋(あべのターミナル周辺)の路面電車軌道敷を芝生化するとともに、地域住民の安全にも配慮しつつ快適な公共空間を構築します。芝生化後のマネジメントについては、民間の活力を活用しながら持続可能な仕組みづくりをめざします。

芝生軌道(あべのキューズモール前付近)



大阪市立美術館



臨海部

・臨海部では、環境・新エネルギーのモデルエリアの実現に向けた取組みを進めるとともに、MICE機能や国際的なエンターテイメント機能等を備えた統合型リゾート（IR）の誘致や、クルーズ客船の母港化などにより、世界にアピールできる集客観光拠点をめざします。

「統合型リゾート（IR）関連法案」の成立が前提



天保山岸壁に入港する客船

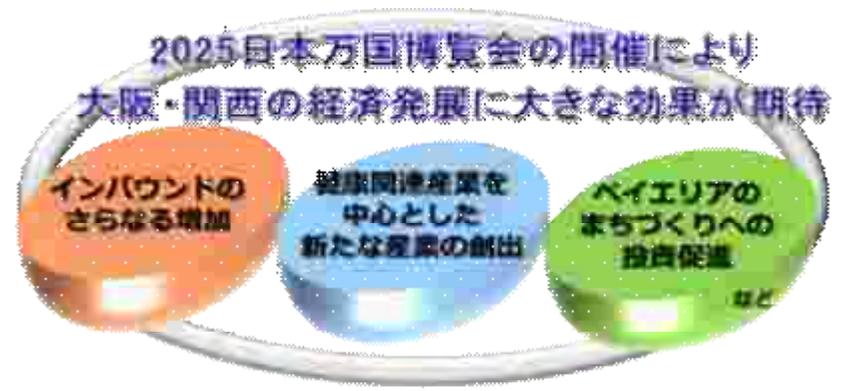


クルーズ客船母港化
 クルーズ客船の母港化により内外集客力を強化するとともに新たなウォーターフロントのまちづくりに挑戦し、世界にアピールできる集客観光拠点をめざします。

2025日本万国博覧会の誘致について

夢洲に誘致・実現することで大阪成長の起爆剤とするのみならず、全世界に大阪の魅力を発信する絶好の機会となる万博誘致の取組を、地元大阪はもちろんのこと、誘致委員会及び国、経済界とも一丸となり、積極的に展開。

テーマ	いのち輝く未来社会のデザイン (Designing Future Society for Our Lives)
開催期間	2025年5月3日～11月3日
開催場所	夢洲（大阪市此花区）
入場者数想定規模	約2,800万人
全国への直接的な経済波及効果	約2.0兆円
主な開催経費	会場建設費 約1,250億円 事業運営費 約820億円



臨海部（夢洲）

国際観光拠点「夢洲」 SMART RESORT CITY（夢と創造に出会える未来都市）

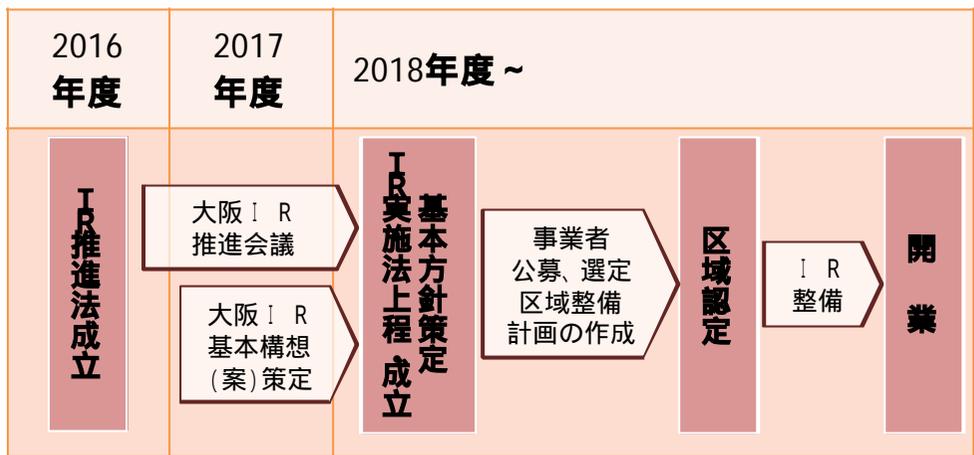
統合型リゾートIRの誘致について

今後開発が可能となる最大約170ヘクタールを対象に、MICE機能や国際的なエンターテインメント機能等を備えた統合型リゾート（IR）の誘致など、国際観光拠点を形成

建設投資による経済波及効果7,600億円

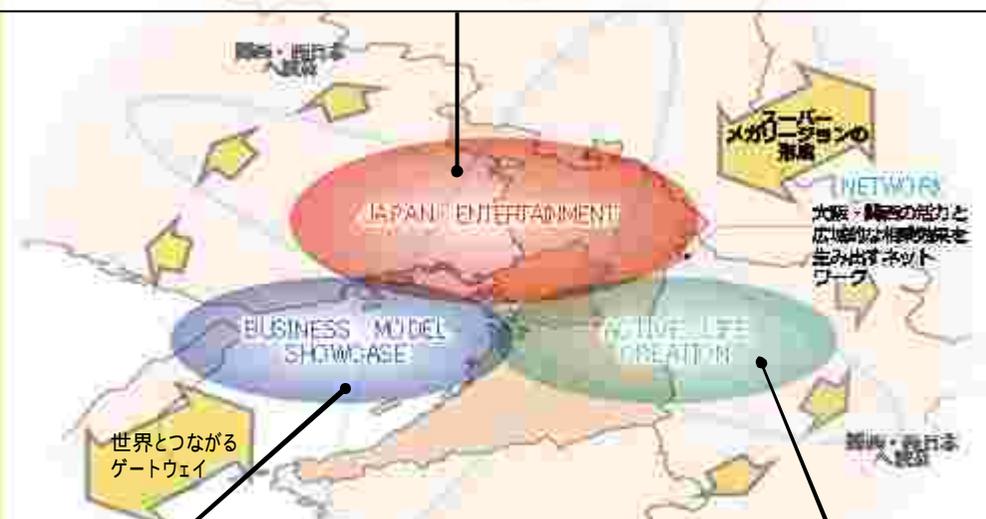
運営による経済波及効果6,900億円 / 年

経済波及効果は、1期（70ha）にIRを含む国際観光拠点を形成した場合の想定



大阪・関西・日本観光の要となる独創性に富む国際的エンターテインメント拠点形成

世界中の人が訪れてみたいとあこがれ、質・規模ともに世界水準である日本・関西らしい文化・芸能に関する施設やコンテンツなど、多彩なエンターテインメントを体験できる国際的エンターテインメント拠点を統合型リゾート（IR）を中心として形成



新しいビジネスにつながる技術やノウハウを世界第一級のMICE拠点を中心にショーケース化し、国内外に発信

統合型リゾート（IR）を核として世界を相手に競争力を持つMICE拠点を形成し、都市力向上・産業振興に資する大規模展示会や国際会議等への対応力を強化

健康で生き生きとした生活をエンジョイできる革新的な技術などの創出と体験

様々な旅行形態の創出につながる取り組みをはじめ、最先端技術の活用などを図りながら生活の質（QOL：Quality Of Life）を更に高める技術の創出や質の高い空間・サービスを体験できる滞在環境を2025年の万博開催のムーブメントを活かして推進